

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	五嶋 幹雄	学年・学期	2年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	介護福祉現場において、人材育成の重要性を理解させるとともに、組織の管理運営、チームマネジメントの実践的理解を深めさせる。人材育成や活用など、人材管理とリーダーシップについて教授する。						
到達目標	①介護サービスの特性と求められる介護実践のマネジメント方法について理解する ②チームケアの必要性と実践方法について学ぶ ③介護現場の組織と運営管理について理解する ④福祉現場における人材育成の必要性を理解する						
授業計画・内容							
第1週	オリエンテーション						
第2週	ヒューマンサービスとしての介護サービス						
第3週	介護実践で求められるチームマネジメント						
第4週	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み						
第5週	チームでケアを展開するためのマネジメント						
第6週	チームの力を最大化するためのマネジメント						
第7週	介護福祉職のキャリアと求められる実践力						
第8週	介護福祉職としてのキャリアデザイン						
第9週	介護福祉職のキャリア支援・開発						
第10週	自己研鑽に必要な姿						
第11週	介護サービスを支える組織の構造						
第12週	介護サービスを支える組織の機能と役割						
第13週	介護サービスを支える組織の管理						
第14週	チームマネジメントの実際						
第15週	介護福祉士としてのキャリアをイメージする、まとめ						
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状況、学習の理解度、関連知識の理解度で、総合的に評価する						
教科書 教材など	「人間の理解」中央法規出版						
実務経験	老健にて10年、居宅介護事業所にて3年従事				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	社会保障論	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	五嶋 幹雄	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	①現代社会における生活問題と社会保障制度の必要性、②社会保障制度の概念・理念とその対象、③わが国の社会保障制度の体系とその概観、④先進諸国における社会保障制度の概要について教授する。						
到達目標	介護福祉士として活動していく際の、社会保障制度全般に関する必要不可欠な知識が得られることを目標とする。						
授業計画・内容							
第1週	現代社会における生活問題と社会保障制度の必要性						
第2週	社会保障制度の一般的概念・理念とその対象および歴史						
第3週	わが国における社会保障制度の概念・理念と日本国憲法第25条						
第4週	わが国における社会保障制度の体系						
第5週	社会保険制度とは一保険制度の概要、社会保険制度と民間保険制度の関係						
第6週	医療保険制度の種類とその概観						
第7週	年金保険制度の種類とその概観						
第8週	雇用保険制度、労働災害補償保険制度の種類とその概観						
第9週	障害者福祉と障害者保健福祉制度						
第10週	高齢者福祉と介護保険制度						
第11週	社会手当制度の種類とその概観						
第12週	生活保護制度の概観						
第13週	社会福祉制度の種類とその概観						
第14週	社会保障の財源と費用						
第15週	先進諸国における社会保障制度の概要ーイギリス・北欧						
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状況、学習の理解度、関連知識の理解度で、総合的に評価する						
教科書 教材など	「社会の理解」中央法規出版 その他資料あり						
実務経験	老健にて10年、居宅介護事業所にて3年従事				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	地域包括ケア論	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	佐藤 伸隆	学年・学期	2年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	高齢社会の進行や介護保険制度とともに発展してきたようにみえる地域包括ケアシステムは今日、高齢者分野に限らず、障害、子ども家庭、生活困窮や保健・医療文和などにも対象を広げています。また、地域福祉の推進や地域共生社会の実現によって専門職と地域住民の連携協働はもちろん、地域住民を主体とした地域包括ケアの実現が求められています。 この講義では、地域包括ケアの全体像とそれに関わる機関・団体、人を理解した上で、さまざまな分野における地域包括ケアの展開方法を学びます。						
到達目標	1. 地域共生社会の理念や地域包括ケアの概要を説明することができる。 2. 地域包括ケアに関わる機関・団体と住民組織の種類と機能(役割)を説明することができる。(地域共生社会の実現に向けた取り組み、多文化社会と多文化共生に向けた取り組み等) 3. 専門職と地域住民(組織)との協働、地域コーディネートの実践方法を理解することができる。 4. 事例をもとに、介護に関係する分野の地域包括ケアを進める(展開する)ことができる。 5. 地域包括ケアにおける介護福祉士の役割を考察し、述べることができる。						
授業計画・内容							
第1週	オリエンテーション／地域包括ケアと介護						
第2週	地域における住民の生活						
第3週	地域福祉の推進と地域共生社会の実現ー地域住民の生活を支える4つの「助」ー						
第4週	地域包括ケアの必要性と発展の歴史						
第5週	地域包括ケアの基本						
第6週	地域包括ケアに関わる機関・団体と住民組織						
第7週	地域包括支援センターと地域ケア会議(高齢者分野)						
第8週	障害者相談支援事業所と障害者自立支援協議会(障害者分野)						
第9週	重層的支援体制整備事業						
第10週	在宅(地域)医療と介護						
第11週	住民主体の地域包括ケアと地域コーディネート						
第12週	地域包括ケアにおけるマネジメント						
第13週	地域包括ケアの進め方1ー高齢者ー						
第14週	地域包括ケアの進め方2ー障害者・在宅(地域)医療ー						
第15週	地域包括ケアの進め方2ー介護予防ー／全体のまとめ						
評価方法	定期試験と出席で評価する。						
教科書 教材など	授業ごと資料を作成し配付する。						
実務経験	社会福祉協議会等で実務経験あり				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護福祉論Ⅲ	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	近藤 舞	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	介護を必要とする多様な人たちの個別性や介護の実情を理解し、それらの人たちの生活ニーズや生活環境の重要性について講義を中心として論じる。事例や視覚教材の活用により、下記の内容について具体的に理解を深める。						
到達目標	① 介護を必要とする人の生活の場－施設、在宅 ② 介護を必要とする人の生活の個別性を理解する ③ 介護を必要とする人の理解－高齢者、障害者の理解 ④ 介護を必要とする人の生活を支える仕組み ⑤ 介護を必要とする人の生活を支える仕組み－生活環境						
授業計画・内容							
第1週	施設介護の歴史と意義、目的、役割						
第2週	介護を必要とする人の生活の場の理解－施設						
第3週	介護を必要とする人の生活の場の理解－在宅（グループホーム、サービス付き高齢者住宅等、小規模多機能型）						
第4週	特別養護老人ホーム－従来型介護、ユニットケア						
第5週	介護老人保健施設						
第6週	障害者支援施設						
第7週	認知症対応型施設介護（グループホーム）、小規模多機能型生活介護						
第8週	サービス付き高齢者住宅、介護型有料老人ホーム、住宅型有料老人ホーム						
第9週	介護を必要とする人の理解－生活の理解						
第10週	介護を必要とする人の理解－高齢者の暮らしを支える介護						
第11週	介護を必要とする人の理解－障害者の暮らしを支える介護						
第12週	介護を必要とする人の理解－その人らしさと生活ニーズ						
第13週	介護を必要とする人の理解－生活環境の重要性						
第14週	介護を必要とする人の生活を支える仕組みの理解と連携の意義						
第15週	まとめと試験						
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する						
教科書 教材など	「介護の基本Ⅱ」中央法規出版						
実務経験	高齢者福祉施設での介護業務の経験あり				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護福祉論Ⅳ	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	佐藤 伸隆	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	在宅介護の課題や介護の継続のための条件整備の方法について教授する。方法としては、講義を中心として、①在宅介護の実態や在宅介護実践について、②他職種連携の実践について、事例や視覚教材の活用により、下記の内容について具体的に理解を深める。						
到達目標	① 在宅サービスの基礎的知識の理解 ② 在宅介護の特性と在宅介護の課題の理解 ③ 状態別による在宅介護の理解 ④ 在宅で要介護者を支える多職種連携の必要性和展開方法の習得						
授業計画・内容							
第1週	ホームヘルプサービスの歴史						
第2週	在宅介護の現状と課題						
第3週	制限された条件下における介護(場所の制限・人の制限・道具の制限・動きの制限)						
第4週	在宅介護の原則と在宅介護の利点を生かした介護の展開方法						
第5週	自立にむけた介護(在宅)継続のための協働する多職種の役割と専門性						
第6週	他職種連携の意義と課題－チームアプローチの意義と目的						
第7週	他職種連携の意義と課題－チームアプローチの具体的展開						
第8週	チームアプローチ－ひとり暮らし高齢者世帯						
第9週	チームアプローチ－高齢者夫婦世帯						
第10週	チームアプローチ－介護力の低下している世帯						
第11週	チームアプローチ－認知症高齢者						
第12週	チームアプローチ－複数の課題を抱えた要介護者						
第13週	地域包括ケアシステムにおける多職種連携の意義と介護福祉士の役割						
第14週	在宅での支援における権利擁護の重要性						
第15週	まとめと試験						
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する						
教科書 教材など	「介護の基本Ⅱ」中央法規出版						
実務経験	社会福祉協議会等で実務経験あり				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護福祉論Ⅴ	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	五嶋 幹雄	学年・学期	2年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	在宅および施設介護サービスの特性について理解するとともに、介護における安全の確保とリスクマネジメントについて教授する。感染症対策について教授する。介護従事者の心身の健康管理と安全の確保について、事例や視覚教材の活用により、下記の内容について具体的に理解を深める。						
到達目標	① 施設介護サービスの特性と起こりうる介護事故の理解 ② 在宅介護サービスの特性と起こりうる介護事故の理解 ③ 感染症予防の意義と目的、介護職の役割の理解 ④ リスクマネジメントにおける連携の必要性和展開方法の習得 ⑤ 介護従事者の安全確保と健康管理の重要性の理解						
授業計画・内容							
第1週	施設サービスの特性						
第2週	在宅介護サービスの特性						
第3週	介護従事者の職業倫理と介護事故防止						
第4週	介護事故の現状と対策						
第5週	介護における安全の確保						
第6週	事故防止、安全対策(1)緊急連絡システム						
第7週	事故防止、安全対策(2)高齢者の転倒事故						
第8週	事故防止、安全対策(3)消費者被害、鍵の閉め忘れ、詐欺等						
第9週	感染症対策(1)感染予防の意義と介護						
第10週	感染症対策(2)感染予防の知識と技術						
第11週	感染症対策(3)施設および在宅における衛生管理						
第12週	介護従事者の心身の健康管理(1)心の健康管理						
第13週	介護従事者の心身の健康管理(2)感染予防と対策、腰痛予防と対策						
第14週	介護従事者の心身の健康管理(3)労働安全、労働法規						
第15週	まとめと試験						
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する						
教科書 教材など	「介護の基本Ⅱ」中央法規出版						
実務経験	老健にて10年、居宅介護事業所にて3年従事				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション技術演習	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	五嶋 幹雄	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	具体的な介護場面、チームケア、相談援助場面を体系的に取り上げ、援助の知識と技術をコミュニケーションを中心に実践的に学んでいく。						
到達目標	援助の知識と技術を実践的に習得することによって、専門的援助技術として概念化し、理論化していくための基礎的能力を涵養する。						
授業計画・内容							
第1週	コミュニケーション障害への対応の基本						
第2週	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援1						
第3週	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援2						
第4週	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援3						
第5週	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援4						
第6週	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援5						
第7週	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援6						
第8週	介護におけるチームのコミュニケーション						
第9週	報告・連絡・相談の技術						
第10週	記録の実際						
第11週	会議・議事進行・説明の技術						
第12週	事例検討に関する技術						
第13週	事例検討の実際						
第14週	情報の活用と管理のための技術						
第15週	まとめ、到達度評価						
評価方法	レポート、小テスト、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する						
教科書 教材など	「コミュニケーション技術」中央法規出版						
実務経験	老健にて10年、居宅介護事業所にて3年従事				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	生活支援技術Ⅳ	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	小野 史恵 ・ 増見 富海子 ・ 近藤 舞	学年・学期	2年・前期	時間数	60 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	老化や障害から生じる介護ニーズを把握し、個々の要介護者の状況に応じた介護技術を使用した身体介護の方法を習得する。①自立にむけた身じたくの介護 ②自立にむけた移動の介護 ③自立にむけた食事の介護 ④自立にむけた入浴・清潔保持の介護 ⑤自立にむけた排泄の介護 ⑥自立に向けた睡眠の介護 老化や障害から生じる生活困難への家事援助の必要性を理解し、自立にむけた家事の介護方法を理解する。老化や障害から生じる生活の不便さ理解し、自立にむけた居住環境の整備の方法を理解する。終末期の介護など医療ニーズの高い要介護者に対する援助の方法を理解する。						
到達目標	老化や障害による要介護者へのアセスメント及び生活支援の技法を理解する。そして生活支援技術Ⅰ・Ⅱで学んだ介護技術の基本を、個々の障害形態に応じた介護技術として応用展開ができる。						
授業計画・内容							
第1週	アセスメントと生活支援の技法						
第2週	要介護高齢者への介護技法及び生活支援の方法						
第3週	認知症高齢者への介護技法及び生活支援の方法						
第4週	寝たきり高齢者への介護技法及び生活支援の方法						
第5週	居宅生活の要介護高齢者とその家族への介護技法及び生活支援の方法						
第6週	身体障害による要介護者への介護技法及び生活支援の方法						
第7週	内部障害による要介護者への介護技法及び生活支援の方法―呼吸器・循環器						
第8週	内部障害による要介護者への介護技法及び生活支援の方法―消化器・腎機能						
第9週	言語・聴覚障害による要介護者への要介護者への介護技法及び生活支援の方法						
第10週	視覚障害による要介護者への介護技法及び生活支援の方法						
第11週	重複障害による要介護者への介護技法及び生活支援の方法						
第12週	知的障害による要介護者への介護技法及び生活支援の方法						
第13週	精神障害による要介護者への介護技法及び生活支援の方法						
第14週	医療ニーズの高い要介護者への要介護者への介護技法及び生活支援の方法						
第15週	障害児とその家族への要介護者への介護技法及び生活支援の方法						
評価方法	小テスト、出席状況、レポート、試験により総合的に評価する						
教科書 教材など	「生活支援技術Ⅲ」中央法規出版						
実務経験	保健所にて保健課・健康長寿課等の実務経験あり。また、看護師・保健師・養護教諭の資格を取得/特別養護老人ホームにて現場経験あり				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護過程実践演習Ⅰ	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	近藤 舞 ・ 五嶋 幹雄	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	具体的な介護場面を想定した、実技指導を中心とする演習形態で、介護過程の展開及び介護過程の実践的展開を習得する。尚、介護過程の展開のうち、「インテーク」「アセスメント」「計画の立案」の場面について演習を行うと共に、グループディスカッションを通して考える能力を養う。また、介護過程で必要とされる記録について、その書き方と報告の方法について学ぶ。						
到達目標	適切な介護サービスの提供のための介護過程の必要性について理解し、利用者の尊厳を守り、利用者の自立支援をめざした介護計画の作成ができる。						
授業計画・内容							
第1週	オリエンテーション						
第2週	インテーク － 利用者を理解する						
第3週	アセスメントⅠ － 情報の収集を行う（ストレングス視点における利用者理解）						
第4週	アセスメントⅡ － 情報の収集を行う(利用者を取り巻く環境)						
第5週	アセスメントⅢ － 情報の整理・分析を行う(人)						
第6週	アセスメントⅣ － 情報の整理・分析を行う(環境)						
第7週	アセスメントⅤ － 情報の整理・分析を行う						
第8週	アセスメントⅥ － 情報の整理・分析を行う(介護者の視点)						
第9週	アセスメントⅦ － ニーズを明確化する						
第10週	計画の立案Ⅰ － 目標の設定						
第11週	計画の立案Ⅱ － 援助方法の立案						
第12週	計画の立案Ⅲ － 援助方法の立案						
第13週	計画の立案Ⅳ － 社会資源の活用・調整・開発						
第14週	計画の実施の事前準備						
第15週	まとめと到達度評価						
評価方法	レポート、小テスト、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する						
教科書 教材など	授業にて適宜指示する						
実務経験	高齢者福祉施設での介護業務の経験あり/老健にて10年、居宅介護事業所にて3年従事				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護過程実践演習Ⅱ	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	小野 史恵 ・ 増見 富海子	学年・学期	2年・後期	時間数	60 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	介護実習Ⅲで作成した介護計画にそって、介護過程を振り返り、グループディスカッションを行い、利用者の自立や、利用者の状態・状況に応じた介護過程の実践的展開や介護過程とチームアプローチについて習得する。介護実習Ⅳで展開した介護過程をもとに事例研究を行い、利用者の全人的理解と尊厳を守り、自立と自律を支援するために必要なケアのあり方について、介護実践の科学的探求の視点に基づき考察する。						
到達目標	利用者の尊厳を守り、自立に向けた支援のために必要とされる、介護計画の作成から実施、評価を行う能力が介護過程の展開を通して身につく。						
授業計画・内容							
第1週	オリエンテーション						
第2週	介護実習Ⅲと介護過程の展開の実際Ⅰ－ニーズを観る視点						
第3週	介護実習Ⅲと介護過程の展開の実際Ⅱ－アセスメント(グループ討議)						
第4週	介護実習Ⅲと介護過程の展開の実際Ⅲ－計画の立案・目標の設定(グループ討議)						
第5週	介護実習Ⅲと介護過程の展開の実際Ⅳ－計画の立案・援助方法(グループ討議)						
第6週	介護実習Ⅲと介護過程の展開の実際Ⅴ－モニタリング・評価(グループ討議)						
第7週	介護実習Ⅳと介護過程の展開の実際Ⅵ－介護実習Ⅳの振り返り(グループ討議)						
第8週	介護実習Ⅳと介護過程の展開の実際Ⅶ－介護実習Ⅳの振り返り(グループ討議)						
第9週	介護実習Ⅳと実習のまとめⅠ－グループ討議とスーパービジョン						
第10週	介護実習Ⅳと実習のまとめⅡ－発表用スライドの作成						
第11週	介護実習Ⅳと事例研究Ⅰ						
第12週	介護実習Ⅳと事例研究Ⅱ						
第13週	介護実習Ⅳと事例研究Ⅲ						
第14週	介護実習Ⅳと事例研究Ⅳ						
第15週	実習及び事例研究報告会						
評価方法	実習及び事例研究の成果物と実習報告会及び出席状況を総合的に評価する						
教科書 教材など	資料を配付する						
実務経験	高齢者福祉施設で介護福祉士としての実務経験/保健所にて保健課・健康長寿課等の実務経験あり				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護実習Ⅲ	学科名	介護福祉学科			授業方法	実習
担当教員	近藤 舞 ・ 五嶋 幹雄 ・ 増見 富海子 ・ 小野 史恵	学年・学期	2年・前期	時間数	144 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	対象の理解を深め、介護過程の実践的展開(生活上の需要について分析し、課題を抽出し、目標を設定するためのアセスメント方法)を習得する。各領域で学んだ知識・技術を統合し、介護実践に必要な観察力及び思考力を養う。多職種協働の実践における介護福祉士の役割について理解し、チームの一員としての実践力を養う。						
到達目標	利用者との相互理解・信頼関係の構築ができる。観察や記録、職員の情報により、利用者の身体レベルを理解する。障害のレベルに応じたエビデンスに基づく介護技術を習得する。施設と地域との関連について理解する。受け持ち利用者の個別援助計画の立案方法を理解する。						
授業計画・内容							
第1週	早出・遅出の変則勤務を体験し、早朝・夜間の業務を知るとともに対象者の早朝・夜間の生活の様子を観察する						
第2週	施設の行事やレクリエーションの企画に参加し、生活の潤いや楽しみの支援方法を学ぶ						
第3週	チームの一員として対象の個別性や場に応じた介護実践ができる						
第4週	受け持ち利用者の個別介護計画作成のための情報収集・アセスメント方法を習得する						
第5週	施設の行事やレクリエーションの企画に参加し、生活の質を高める支援方法を学ぶ						
第6週	施設におけるリスクマネジメントの実際について学ぶ						
第7週	ケースカンファレンスに参加して多職種連携の実際について知る						
第8週	障害のレベルや個別性に応じた介護技術の用い方を習得する						
第9週							
第10週							
第11週							
第12週							
第13週							
第14週							
第15週							
評価方法	レポート、授業態度、出席状況、実習記録および学習の理解度、関連知識・技術の理解度						
教科書 教材など	「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 「介護実習の手引き」						
実務経験	高齢者福祉施設で介護福祉士としての実務経験/保健所にて保健課・健康長寿課等の実務経験あり				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護実習Ⅳ	学科名	介護福祉学科			授業方法	実習
担当教員	近藤 舞 ・ 五嶋 幹雄 ・ 増見 富海子 ・ 小野 史恵	学年・学期	2年・後期	時間数	160 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。						
到達目標	①介護福祉士としての専門的な技術を確立することができる。 ②介護過程の実践的展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立の支援方法を学ぶ ③ケースカンファレンス等を通して、多職種協働における介護福祉士としての役割を理解し、多職種連携やチームケアについて体験的に学ぶ ④対象者の地域での生活を支える施設・機関の役割を理解する						
授業計画・内容							
第1週	朝礼や夕方の業務の引継ぎに参加し、チームケアの実際について学ぶ						
第2週	施設の行事やレクリエーションの企画に参加し、生活の質を高める支援方法を学ぶ						
第3週	ケアチームの一員として利用者の個別性に応じた介護実践ができる						
第4週	日常生活場面で障害の程度や場に応じたの様々な介護を実践する						
第5週	個別利用者の情報収集・アセスメント、計画の立案の方法を学ぶ						
第6週	個別介護計画の実践方法、その評価方法を学ぶ						
第7週	個別介護計画の妥当性について検証方法を学ぶ						
第8週	介護過程の展開、記録方法について学ぶ						
第9週	夜間の対象者の様子を観察し、夜勤勤務の職員の介護実践を体験する						
第10週	対象者の生活上の課題を解決するためのケースカンファレンスに参加し、多職種協働の実践について学ぶ						
第11週	地域における施設の役割について行事等を通して学ぶ						
第12週							
第13週							
第14週							
第15週							
評価方法	レポート、授業態度、出席状況、実習記録および学習の理解度、関連知識・技術の理解度						
教科書 教材など	「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 「介護実習の手引き」						
実務経験	高齢者福祉施設で介護福祉士としての実務経験/保健所にて保健課・健康長寿課等の実務経験あり				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習Ⅲ	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	近藤 舞 ・ 五嶋 幹雄 ・ 増見 富海子 ・ 小野 史恵	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	実習の教育効果をあげるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。						
到達目標	① 介護過程の意義、目的、展開方法が理解できる ② エビデンスに基づく介護サービスの提供方法について理解する ③ 多職種連携の意義と目的、方法が理解できる						
授業計画・内容							
第1週	介護実習Ⅲの実習計画の作成						
第2週	施設における多職種連携の意義・目的						
第3週	チームケアの意義と目的、方法						
第4週	介護過程の意義と目的の理解						
第5週	介護諸記録の意義と活用方法について						
第6週	受け持ち利用者の決定と信頼関係の構築のためのコミュニケーション						
第7週	介護過程の展開－インテーク・情報収集						
第8週	介護過程の展開－情報の分析、課題の明確化						
第9週	介護過程の展開－介護目標の設定						
第10週	介護過程の展開－仮プランの作成						
第11週	多職種連携の意義、方法						
第12週	ケアカンファレンスのもち方						
第13週	介護実習Ⅲのまとめ、自己評価						
第14週	実習報告会―学びの共有・深化						
第15週	介護実習Ⅲのまとめと介護実習Ⅳへの課題の明確化						
評価方法	レポート、授業態度、出席状況、実習記録および学習の理解度、関連知識・技術の理解度						
教科書 教材など	「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 「介護実習の手引き」						
実務経験	高齢者福祉施設で介護福祉士としての実務経験/保健所にて保健課・健康長寿課等の実務経験あり				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習Ⅳ	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	近藤 舞 ・ 五嶋 幹雄 ・ 小野 史恵 ・ 増見 富海子	学年・学期	2年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	介護福祉士養成教育のまとめとしての介護実習Ⅳのための事前学習を進める。各領域の知識と介護実践の統合とエビデンスに基づく介護実践のための介護過程の展開の実践方法について教授する。既習の施設の運営や地域との連携や協働のあり方について確認する。						
到達目標	①知識、技術、態度を活用し、介護過程が展開できる ②施設の管理運営的視点や地域との連携や協働の必要性について理解できる ③ケアチームの一員として、エビデンスに基づく介護実践が展開できる ④受け持ち利用者の全人的理解と尊厳を保持するための介護実践について理解できる ⑤受け持ち利用者の介護過程の展開において実施と評価を行い、事例検討に発展させるための介護実践の科学的探求の視点について理解できる						
授業計画・内容							
第1週	介護実習Ⅳにおける実習計画案の作成						
第2週	介護実習施設における施設運営管理についての理解						
第3週	介護制度・政策と地域における施設の役割の理解						
第4週	介護過程と介護諸記録の活用						
第5週	介護諸記録の意義と活用方法についての理解						
第6週	介護過程展開方法についての体験の共有化とスーパービジョン(アセスメント)						
第7週	介護過程展開方法についての体験の共有化とスーパービジョン(介護計画立案)						
第8週	介護過程展開方法についての体験の共有化とスーパービジョン(介護援助実践)						
第9週	介護過程展開方法についての体験の共有化とスーパービジョン(評価・考察)						
第10週	介護過程展開方法についての体験の共有化とスーパービジョン(介護計画修正)						
第11週	実習の振り返り―自己評価と客観的評価による自己の課題の明確化						
第12週	介護過程の展開から事例研究へ―介護実践におけるエビデンスの構築に向けて						
第13週	事例研究の発表に向けてのまとめ―体験の共有と一般化―						
第14週	介護福祉士としての自己理解と課題の明確化						
第15週	実習報告会の準備と実施						
評価方法	レポート、授業態度、出席状況、実習記録および学習の理解度、関連知識・技術の理解度						
教科書 教材など	「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 「介護実習の手引き」						
実務経験	高齢者福祉施設で介護福祉士としての実務経験/保健所にて保健課・健康長寿課等の実務経験あり				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	臨床医学概論	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	住居 広士	学年・学期	2年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	総論では、疾病、障害の概念、加齢により生ずる変化の理解を講義し、各論では、疾病や障害に応じた介護実践における留意点について講義する。						
到達目標	健康の捉え方、疾病と障害の概要について理解できる。疾病や障害のある人のところやからだのしくみが理解できる。疾病や障害のある人の睡眠に関連したところとからだのしくみについて理解できる。死にゆく人のところとからだのしくみを理解できる。						
授業計画・内容							
第1週	臨床医学の定義、健康の捉え方、発育・発達・加齢による変化						
第2週	障害の医学的側面の基礎的知識、障害の基礎的知識						
第3週	呼吸器・循環器・消化器疾患						
第4週	血液・がん・代謝・内分泌疾患						
第5週	腎・尿路疾患						
第6週	神経・精神疾患、薬物中毒						
第7週	代謝、内分泌疾患、感染症						
第8週	先天性疾患と生活習慣病、難病						
第9週	身体障害						
第10週	発達障害						
第11週	内部障害						
第12週	精神障害						
第13週	重症心身障害						
第14週	疾病や障害のある人の睡眠に関連したところとからだのしくみ						
第15週	人生の最終段階人のところとからだのしくみ・定期試験						
評価方法	試験成績(80%)と授業態度(20%)により評価する。						
教科書 教材など	必要に応じてプリントを作成し、配付するので、教科書は定めない。						
実務経験	医師としての実務経験、教育経験あり 医師免許・社会福祉士免許・ 介護福祉士免許取得				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	リハビリテーション論	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	住居 広士	学年・学期	2年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	リハビリテーションの定義、リハビリテーションとチームケア（連携と協働）、リハビリテーションに必要なからだのしくみ、リハビリテーションに必要なからだのしくみ、介護現場でのリハビリテーションの実際						
到達目標	介護現場で必要なリハビリテーションの基礎知識を理解する。介護現場で必要な日常生活動作（移動、食事、清潔、排せつ、身じたく、入浴等）に関連するところとからだのしくみを理解できる。						
授業計画・内容							
第1週	リハビリテーションとは						
第2週	リハビリテーションにかかわる専門職の連携と協働について						
第3週	リハビリテーションに必要なからだのしくみの理解（骨格系・筋系）						
第4週	リハビリテーションに必要なからだのしくみの理解（神経系・生理学）						
第5週	リハビリテーションに必要なところのしくみの理解（意欲・動機づけ・適応など）						
第6週	福祉用具や住宅改造						
第7週	脳卒中のリハビリテーション						
第8週	脊髄損傷・慢性関節リウマチのリハビリテーション						
第9週	義足のリハビリテーション 移動に関連したところとからだのしくみの理解						
第10週	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ						
第11週	身じたく・入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみの理解						
第12週	排泄に関連したところとからだのしくみの理解						
第13週	食事に関連したところとからだのしくみの理解						
第14週	介護現場で必要なADLと歩行の指導法について						
第15週	まとめ・定期試験						
評価方法	定期試験等						
教科書 教材など	必要に応じてプリントを作成し、配付するので、教科書は定めない。						
実務経験	医師としての実務経験、教育経験あり 医師免許・社会福祉士免許・介護福祉士免許取得				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	認知症ケア論Ⅱ	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	増見 富海子	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	認知症を取り巻く状況について理解させるとともに、認知症に伴うこころと体の変化と日常生活への対応方法、当事者や認知症の家族への支援について教授する。 また、認知症の当事者や家族に対する地域におけるサポート体制、認知症チームアプローチにおける連携と協働の実践事例を交え教授する。						
到達目標	①認知症に関する基礎知識を習得する ②認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解する ③本人のみならず家族への支援、周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する ④認知症の当事者や家族に対する地域におけるサポート体制、認知症チームアプローチにおける連携と協働について理解する						
授業計画・内容							
第1週	認知症を取り巻く状況						
第2週	認知症ケアの理念と視点						
第3週	認知症当事者の視点から見えるもの						
第4週	パーソン・センタード・ケアとは						
第5週	認知症の人の理解と特性をふまえたアセスメントツール						
第6週	認知症の人とのコミュニケーション						
第7週	認知症の人へのケア						
第8週	認知症の人へのさまざまなアプローチ						
第9週	認知症の人の終末期医療と介護						
第10週	環境づくり						
第11週	家族への支援						
第12週	介護福祉職への支援						
第13週	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア						
第14週	多職種連携と協働						
第15週	まとめ・試験						
評価方法	定期試験と出席状況等で評価する						
教科書 教材など	「認知症の理解」中央法規出版						
実務経験	特別養護老人ホームにて実務経験あり				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	医療的ケアⅠ	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	小野 史恵	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	介護福祉士の基礎的教育をベースとして、医療的ケアを安全・適切に実施するための、感染予防・安全管理体制について知識を教授する。また、医療職と介護職の連携の重要性と役割について教授する。						
到達目標	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。個人の尊厳や自立、医療の倫理、自己決定、個人情報保護について説明できる。呼吸器のはたらきや痰の吸引(人工呼吸器・口腔・鼻腔)についての留意点を説明できる。吸引時のヒヤリハット・アクシデントの実際や事故・急変時の対応について説明できる。経管栄養時のヒヤリハット・アクシデントの実際や事故・急変時の対応について説明できる。						
授業計画・内容							
第1週	医療の倫理・医療的ケア受ける利用者の尊厳と自立、自己決定、個人情報						
第2週	医療行為に関する法律、保健医療に関する制度(医行為とは、介護職と医行為)						
第3週	チーム医療とその実際(事例を通じて介護職の役割の理解)安全な療養生活						
第4週	安全で確実な医療的ケア(リスクマネジメントやヒヤリハットについての知識)						
第5週	救急蘇生法の知識と技術、緊急時の対応や連絡方法、医療連携						
第6週	感染予防や職員の健康管理の必要性						
第7週	居室などの療養環境の清潔や消毒法(消毒と滅菌・消毒薬の使い方の留意点)						
第8週	健康状態の把握、バイタルサインや観察、報告の必要性和技術						
第9週	呼吸器のしくみとはたらき(人体のしくみ・呼吸器の解剖生理・換気とガス交換・生命維持)						
第10週	高齢者及び児童の呼吸の状態観察と呼吸の異常の観察や利用者への対応と医療的ケア実施の基礎						
第11週	人工呼吸器と痰の吸引(1)人工呼吸器のしくみ、必要性、痰の排出のしくみ・痰の吸引の必要性						
第12週	人工呼吸器と痰の吸引(2)吸引をうける利用者・家族の理解、子どもの吸引の留意点						
第13週	吸引に関連する呼吸器系の感染と予防						
第14週	消化系のしくみとはたらき、消化吸収、消化器の症状、経管栄養の必要性、種類						
第15週	経管栄養時のヒヤリハット・アクシデントの実際と対応・まとめ・定期試験						
評価方法	総合評価100点とし60点以上を合格とする。筆記試験、出席状況、出席態度等で評価する。						
教科書 教材など	「医療的ケア」中央法規出版						
実務経験	保健所にて保健課・健康長寿課等の実務経験あり。また、看護師・保健師・養護教諭の資格を取得				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	医療的ケアⅡ－１	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	小野 史恵 ・ 馬越 民恵	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	介護福祉士の基礎的教育をベースとして、医療的ケアの実施に関する制度の概要および医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを字資するための感染予防・安全管理体制」について知識を教授する。また、医療職と介護職の連携の重要性と役割について教授する。						
到達目標	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 ・喀痰吸引の基礎知識・実施手順、実施上の留意点を説明できる ・経管栄養の基礎知識・実施手順、実施上の留意点を説明できる ・評価基準に沿った演習：利用者の状態に応じた安全な医療的ケア技術を習得する ・喀痰吸引、経管栄養時のヒヤリハット・アクシデントの実際や事故・急変時の対応を習得する						
授業計画・内容							
第1週	喀痰吸引に必要な人体の構造と機能の理解						
第2週	痰の吸引で用いる器具・器材とその仕組み、清潔の保持の理解						
第3週	吸引の技術と留意点(1)必要物品の準備・設置と留意点吸引前の利用者の状態観察と準備						
第4週	吸引の技術と留意点(2)吸引の実施と吸引中・後の観察と留意点及び報告						
第5週	喀痰吸引時の急変状態への対応						
第6週	喀痰吸引と救急蘇生法						
第7週	子どもの痰の吸引(口腔内吸引・鼻腔吸引・気管カニューレ内部の吸引)の技術と留意点						
第8週	痰の吸引(口腔内吸引・鼻腔吸引・気管カニューレ内部の吸引)演習(1)						
第9週	痰の吸引(口腔内吸引・鼻腔吸引・気管カニューレ内部の吸引)演習(2)						
第10週	痰の吸引(口腔内吸引・鼻腔吸引・気管カニューレ内部の吸引)演習(3)						
第11週	痰の吸引(口腔内吸引・鼻腔吸引・気管カニューレ内部の吸引)演習(4)						
第12週	痰の吸引(口腔内吸引・鼻腔吸引・気管カニューレ内部の吸引)演習(5)						
第13週	経管栄養に必要な人体の構造と機能について						
第14週	生命維持における栄養・水分の重要性						
第15週	経管栄養実施上の技術と留意点(1)必要物品と環境の整備の理解						
評価方法	筆記試験および各評価項目の基準により評価する・実施回数の各項目以上を実施回数とし、項目に沿っての評価とする。						
教科書 教材など	「医療的ケア」中央法規出版						
実務経験	保健所にて保健課・健康長寿課等の実務経験あり。また、看護師・保健師・養護教諭の資格を取得/看護師、高齢者施設で実務経験あり				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	医療的ケアⅡ－2	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	小野 史恵 ・ 馬越 民恵	学年・学期	2年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	介護福祉士の基礎的教育をベースとして、医療的ケアを安全・適切に実施するための、感染予防・安全管理体制について知識を教授する。また、医療職と介護職の連携の重要性と役割について教授する。						
到達目標	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 ・喀痰吸引の基礎知識・実施手順、実施上の留意点を説明できる ・経管栄養の基礎知識・実施手順、実施上の留意点を説明できる ・評価基準に沿った演習：利用者の状態に応じた安全な医療的ケア技術を習得する ・喀痰吸引、経管栄養時のヒヤリハット・アクシデントの実際や事故・急変時の対応を習得する						
授業計画・内容							
第1週	経管栄養実施上の技術と留意点(2)実施と実施中・後の観察と留意点及び報告						
第2週	子どもの経管栄養実施上の技術と留意点						
第3週	経管栄養により生じる危険性と安全確認・急変・事故発生時の対応と事前対策						
第4週	経管栄養時の急変状態への対応						
第5週	経管栄養(胃ろうまたは腸ろう・経鼻)とヒヤリハット、アクシデントの実際(事例から)						
第6週	経管栄養と救急蘇生法						
第7週	経管栄養の手順と留意点						
第8週	経管栄養(胃ろうまたは腸ろう・経鼻)と救急蘇生の評価項目に沿った演習(1)						
第9週	経管栄養(胃ろうまたは腸ろう・経鼻)と救急蘇生の評価項目に沿った演習(2)						
第10週	経管栄養(胃ろうまたは腸ろう・経鼻)と救急蘇生の評価項目に沿った演習(3)						
第11週	経管栄養(胃ろうまたは腸ろう・経鼻)と救急蘇生の評価項目に沿った演習(4)						
第12週	経管栄養(胃ろうまたは腸ろう・経鼻)と救急蘇生の評価項目に沿った演習(5)						
第13週	吸引、経管栄養時の急変への対応：救急蘇生法演習						
第14週	医療的ケアを必要とする利用者や家族のプライバシーの配慮・医療職への報告・連絡および記録の意義						
第15週	まとめ、試験						
評価方法	筆記試験および各評価項目の基準により評価する・実施回数の各項目以上を実施回数とし、項目に沿っての評価とする。						
教科書 教材など	「医療的ケア」中央法規出版						
実務経験	保健所にて保健課・健康長寿課等の実務経験あり。また、看護師・保健師・養護教諭の資格を取得/看護師、高齢者施設で実務経験あり				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	リラクゼーション療法入門(音楽・化粧)	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	秀岡 素子 ・ 木村 裕美	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	自立支援のもと、音楽や化粧を通して残存機能を生かした手法を用い、「自分でする」をサポートできるようになる。また、元気な高齢者に対しては、心のフレイル予防など、介護予防としても活用できるようになる。様々な音楽や化粧の知識にふれ、必要に応じて対象者に提供できるようになる。						
到達目標	音楽や化粧を用いて対象者に寄り添い、受容するスキルを身に付け、音楽療法や化粧セラピーの知識を理解し、基本的な技法を提供できるようになる。						
授業計画・内容							
第1週	音楽療法の定義と内容・歴史						
第2週	心理・生理・社会と音楽との関わり						
第3週	身体・言語へのアプローチ						
第4週	認知・情緒・社会性へのアプローチ						
第5週	アセスメントについて						
第6週	音楽療法プログラムの作り方						
第7週	高齢者の音楽療法・講義・ロールプレイ						
第8週	ロールプレイ・質疑応答・レポート、まとめ						
第9週	化粧セラピー概論(化粧がQOLの維持・向上につながる理由/ADL						
第10週	美容とコミュニケーション						
第11週	高齢者と化粧(高齢者にとって化粧とは・高齢者を知る)						
第12週	高齢者と化粧(自立支援のもと、残存機能を生かした手法を学ぶ)						
第13週	美容と福祉(ハンドマッサージ・ハンドネイル禁忌事項						
第14週	化粧と社会性						
第15週	まとめ						
評価方法	課題レポート及び授業態度						
教科書 教材など	講師が適宜準備したものを使用する (プリント等)						
実務経験					実務経験のある教員による 授業科目		

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	日本文化福祉論	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	川上 道子	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	日本についての基礎知識として、地域を理解するために地理や日本語の特徴を知る。高齢者や障害者とのコミュニケーションや接遇、生活支援に欠かせない日本文化の理解について、通過儀礼を中心に説明する。						
到達目標	・日本の地理や日本語と文化について説明できる ・高齢者や障害者とのコミュニケーションの中で、日本の通貨儀礼との関係を説明できる ・自国の文化との違いを明確にし、記録することができる						
授業計画・内容							
第1週	日本についての基礎的知識(地理・歴史・日本語の特徴)						
第2週	日本文化と通過儀礼① 誕生祝い・子育て						
第3週	日本文化と通過儀礼② 幼児・学童期						
第4週	日本文化と通過儀礼③ 成人・結婚・出産						
第5週	日本文化と通過儀礼④ 高齢期・病気・葬儀						
第6週	日本語と文化① 漢字・カタカナ・ひらがな						
第7週	日本語と文化② 習字・手紙・はがき						
第8週	日本の文化と福祉① 音楽(童謡・唱歌・大衆歌)						
第9週	日本の文化と福祉② 芸術・芝居・歌舞伎						
第10週	日本の文化③ 道(舞・華道・茶道・武道)						
第11週	日本の文化④ 生活習慣(衣服)						
第12週	日本の文化⑤ 生活習慣(食事)						
第13週	日本の文化⑥ 生活習慣(住居)						
第14週	日本の文化と福祉(歴史からみた障害児)						
第15週	試験・自国の文化との比較・振り返り						
評価方法	①授業中の質問・リアクションペーパー 20点 ②課題・小テスト 20点 ③期末テスト 60点 ①②③の合計点が60点以上を認定する						
教科書 教材など	資料を準備する、日本文化に関するDVD・CD						
実務経験	医療法人にて看護業務の現場経験あり 看護師免許				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	社会福祉施設運営論	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	渡辺 裕文	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	制度や政策及び関連法規に加えて、地域の福祉ニーズと組織の使命に基づく社会福祉施設運営のあり方を理解する。実際の現場で求められる運営やマネジメントに関する知識を体系的に学び、ワークショップを通じて自らが管理者のつもりで課題を考察する。						
到達目標	・社会福祉施設の管理者に必要な知識、視点、責任を理解する。 ・組織でリーダーに選ばれるための思考や行動を理解する。 ・専門性のみにとらわれない広い視野と柔軟な発想を持つ。						
授業計画・内容							
第1週	オリエンテーション：講義の概要と進め方等について理解する						
第2週	リーダーの役割と資質：組織のリーダーに必要なスキルを理解する						
第3週	施設の設備と人員：特養に必要な設備や人員、基準等について理解する						
第4週	施設の運営主体：社会福祉法人やその他の運営主体について理解する						
第5週	施設開設までの流れ：特養を開設するまでの準備や手続き等を理解する						
第6週	第1回 小テスト テストの解説等						
第7週	労務管理と人事管理①：職員の採用や賃金、規則等について理解する						
第8週	" ②：人材育成や人事考課について理解する						
第9週	人間関係とストレス管理：組織の人間関係やストレスへの対処方等を理解する						
第10週	第2回 小テスト						
第11週	非常災害対策：施設の非常災害対策について理解する						
第12週	苦情対応：施設の苦情対応について理解する						
第13週	施設の収入と支出：介護報酬と経費について理解する						
第14週	第3回 小テスト						
第15週	講義の振り返り：質疑応答、補足講義、意見交換等を行う						
評価方法	小テスト及び授業態度、出席状況等により評価する。						
教科書 教材など	授業にて適宜指示する。(パワーポイント等)						
実務経験	社会福祉法人で実務経験あり 社会福祉主事任用資格・介護支援専門員・社会福祉士				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2025年度 授業計画(シラバス)

科目名	パラスポーツ指導員養成講座	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	秋政 邦江	学年・学期	2年・後期	時間数	16 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	(公財)日本パラスポーツ協会公認指導者制度を教授する。全国障害者スポーツ大会の概要と障がい者スポーツの現状を理解させる。障害に応じたスポーツの工夫・実施方法を演習により教授する。						
到達目標	① (公財)日本パラスポーツ協会公認指導者制度を理解する ② 全国障害者スポーツ大会の概要と障がい者スポーツの現状を理解する ③ 障害に応じたスポーツの工夫・実施方法を習得する						
授業計画・内容							
第1週	(公財)日本パラスポーツ協会公認指導者制度						
第2週	(公財)日本パラスポーツ協会公認指導者制度と課題						
第3週	全国障害者スポーツ大会の概要と障がい者スポーツの現状						
第4週	全国障害者スポーツ大会の概要と障がい者スポーツの現状						
第5週	障害に応じたスポーツの工夫(1)企画、実施方法の検討(演習・実技)						
第6週	障害に応じたスポーツの工夫(2)企画、実施方法の検討(演習・実技)						
第7週	障害に応じたスポーツの工夫(3)企画、実施方法の検討(演習・実技)						
第8週	障害に応じたスポーツの工夫(4)成果発表(演習・実技)						
第9週							
第10週							
第11週							
第12週							
第13週							
第14週							
第15週							
評価方法	意欲、態度、学習意義の理解度および関連知識・技術の理解度						
教科書 教材など	「全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)」公益財団法人日本パラスポーツ協会						
実務経験					実務経験のある教員による 授業科目		